

## 演題 27. LAMP 法を用いたノロウイルス迅速診断法の導入

○露木勇三 前田敦生 吉田隆 久保勢津子(株式会社サンリツ)

【目的】ノロウイルスは主に冬期において感染性胃腸炎の原因となり、下痢・嘔吐などの症状を起こす。昨冬は大規模な集団感染もあり、社会的現象となった。従来 RT-PCR 法による検出は、検出感度は高いものの操作が煩雑で時間がかかることから、簡易・迅速な検査方法が求められていた。簡便かつ迅速な LAMP 法による検査方法を導入し、広範囲な集団感染対策に活用したので報告する。

【対象と方法】サンプルは、2006年9月1日から2007年8月31日までの1年間で全国の食品従事者から採取した糞便 2,463 検体を用いた。ノロウイルス核酸抽出方法は、QIAamp Viral RNA Mini Kit (Qiagen) にて RNA の抽出を行った。LAMP 法は、栄研化学株式会社の「Loopamp ノロウイルス G I・G II 検出試薬キット」を用いプロトコールに従い 63℃60 分間の反応で測定を行った。

【結果】1年間のノロウイルスの検出率は、2,463 検体中 G I : 3 件 (0.12%)、G II : 103 件 (4.2%) であった。流行期の 2006 年 12 月から 2007 年 2 月の 3 ヶ月間の検出率は、G I : 3 件 (0.2%)、G II : 85 件 (4.6%) であった。また、ノロウイルス陽性者がウイルス検出陰性になるまで 1 ヶ月を超えた例も経験した。

【考察】LAMP 法によるノロウイルス検査方法を導入して、簡便かつ迅速であることが示唆された。食品従事者に対しては検便（細菌検査）の法的義務付けはあるが、現在のところノロウイルス検査の義務付けはない。しかしながら、ヒトからヒトへの二次感染に対して食品を取り扱っている事業関係者は最も注意を払っている。今回の測定結果から食品従事者におけるノロウイルス検査実施の重要性が考えられた。